

平成30年度認定 (No.83)

農業名人

エゴマ・雑穀名人 やまぐち 山口 てっし 哲志

昭和38年生まれ 辰野町在住

「雑穀の里づくりを目指して」



平成21年10月、県外から辰野町へ移住。会社員として勤めるかたわら、田や畑を借り受け、農業を開始。エゴマやモチアワ、モチキビ、タカキビなどの雑穀を中心に、小麦や野菜などの栽培を行っている。平成22年には「有機農園カミーノ」を設立し、収穫した雑穀などをドレッシングやうどん等へ加工し販売。当初2種類だった商品も、現在18種類へと品数を増やし、店頭販売のほか、ふるさと納税返礼品としても利用されている。

販売するほとんどの商品に使用されているエゴマ。農業開始時よりエゴマの栽培に取り組み、平成29年には一般社団法人日本エゴマ協会によるエゴママイスターの認定を受ける。昨今、健康や美容への効果が期待され注目を集めるエゴマ油。良質なエゴマ油の流通に向け、全国のマイスターとともに栽培技術や知識の向上を目指し活動を続ける。

また、辰野町で6次産業化を推進するため、平成28年に設立された「辰野町食の革命プロジェクト運営協議会」へ当初より参加。町内での雑穀の栽培普及やブランド化を目指す「雑穀の里プロジェクト専門部会（以下、雑穀の里専門部会）」の部会長を務める。

雑穀の里専門部会では、辰野町農業委員会の遊休農地発生防止・解消の活動と連携し、町内でのエゴマの栽培普及に取り組む。栽培方法説明会の開催や、収穫後の実の買い取りを行い、商品化を実現。個人で加工する商品とは別に、「雑穀の里専門部会・町民の皆さん」の商品として販売を開始した。栽培から販売に至る仕組の中心を担っており、今後の町内でのエゴマの普及に欠かせない存在となっている。

「今回、多くの方とつながりをもってエゴマの商品が完成した。生産者と消費者の距離が近く安心して使ってもらえる」と、商品の完成を喜ぶとともに、「エゴマを中心に町内で雑穀の栽培がさらに広がり、辰野町が雑穀の里になれば」とこれからの目標を語る。

